

23 コゲツノブエ

(オニノツノガイ科)

兵庫県ランク:A

*Cerithium coralium*

環境省ランク:VU

種の概要

房総半島・北長門海岸から南西諸島に分布し、内湾奥部の泥干潟に生息する。殻長25mm、殻幅10mm前後の塔形。殻色は茶褐色から黒褐色。殻表面には螺溝によって3列の疣状になった太い縦肋があり、腹面はやや平坦になる。

主要な選定理由

| 人為性   |        |        | 生息環境の特殊性 |       | 学術性   |       |    |
|-------|--------|--------|----------|-------|-------|-------|----|
| 個体数激減 | 分布域に影響 | 営利目的捕獲 | 特殊生息環境   | 地域的孤立 | 分布が極限 | 分布の限界 | 希少 |
|       | ○      |        | ○        | ○     |       | △     | ○  |

県内分布

高砂市、たつの市、洲本市、南あわじ市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。淡路島では2008年に中部の内湾干潟で生貝7個体が発見され、以後姿を消していたが、2010年に再び生息が確認された。現在もごく狭い範囲で少数が群れて生息しているが、減少傾向にある。また、同地域にある満潮時に海水が流入する小さな汽水池で、2009年にカノコガイ(貝類要注目種)、ヒメカノコ(貝類Aランク)とともに多数の生貝が確認されたが、池の埋め立てとともに絶滅。このほか、最近、淡路島の西部でも2箇所が生息が確認されているが、いずれも生息範囲は狭く個体数も少ない。加古川で2008年以降、時折確認しているが、極めて少ない。また、姫路市においては未確認ながら生息情報があり、たつの市では新鮮な死貝が確認されたのみである。

保護上の留意点

本種の生息可能な干潟は数あるが、既知産地が限られていることにおいては要求される微環境が既知産地にしかないことにあるので、現状の保全にはまかならない。



写真提供：川渕千尋



写真提供：川渕千尋

【執筆者】 川渕千尋